

8月号

いっしん

令和5年(2023年)

第462号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895

Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

遠いとは
人の心の
へだてなり
いづれの里も
神の懐
甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師神歎

教祖様140年／四神様130年／三代金光様60年／小倉教会布教138年／甘木親教会布教119年／加治木教会布教72年



「育成懇談会」
少年少女会連合本部 派遣講師
宮野 寿 先生 (下関北教会)
令和5年7月9日(日)

「育成懇談会」は、金光教少年少女会連合本部が講師を派遣して下さり、少年少女会運動を推進するための研修会です。

このたびの「育成懇談会」の講師は、下関中教会の宮野 寿(ひさし)先生でした。

宮野先生は、下関中教会の子弟としてお生まれになられ、下関中教会は少年少女会活動に活発に取り組み、中学生の頃には全国大会に併せて開催される年代別キャンプに参加され、やがて成人されて金光教の教師となられてからは、年代別キャンプのスタッフや隊長などを経て、少年少女会連合本部の指導者の研修を重ねられ、育成懇談会等の講師を務められるようになりました。

この日の「青少年の特性と対応」ということを中心に「幼児期、小学校低学年(トキメ)、小学校高学年(ハードメ)、中学生(ジュニアメ)、高校生(アドバンチャ)の、各年代の特性をよく理解して、その年代に応じた適切な指導や育成の大切さをお話し下さいました。

(講話は後日、文章化し教材化の予定です。)

甘木親教会

祈願祭

仕えられる

七月十七日

筑後平野の南部、久留米市田主丸地方は、つい一週間前に線状降水帯による豪雨で土砂災害に見舞われました。

その復旧活動が始まり、九州全域が梅雨明けを待つ七月十七日、甘木親教会では、祈願祭がお仕えになりました。

コロナウイルス感染症も、第五類に移行したものの、突発的に集団感染が起こり、第九波の訪れさえささやかれた中での祈願祭となりました。

ご祭典は、安武道義親先生ご祭主のもと、コロナ禍以前のように四十名ほどの先生方が祭員に就かれてお仕えになりました。

ご祭典後、堀尾光俊先生(日田教会長)のご教話を拝聴させていただきました。



教話後
教会長挨拶をされる
安武道義親先生 →



教話を仕えられる
日田教会長
堀尾光俊先生 →

ご教話では、金光教教典の、
白神先生に連れられ、大勢とともに参った。その時、先生が金光様に向かい、「私は三年間いんきんで困っています。時々ご祈念の時などに、かゆくて、まことに困ります。人のおかげは立ちます。私のは治りません。もつとも、わが事はお願いしなくても、おかげをいただけたらと思います、お願い申し上げます」と申しあげられたところ、

「それは、物を食うから治らないのである。ただけば治る」と仰せられた。(岡繁蔵の伝え)

このみ教えを頂かれた日田教会の信者さんが、信心を展開され進めて行かれたことを紹介され、尊いご信心の内容を拝聴させていただきました。

「お育てを頂いて」

吉田幸一先生 講話

(熊本県・隈庄教会長)

令和五年五月七日 加治木教会
 天地金乃神御大祭 講話



七、◆仲間とキャンプに◆
 そういう中で兄弟同様の友達がい
 ました。私は小学校六年生、そして
 中学一年生と中学二年生の三人いま
 したが、学院を出られた今の教会長
 先生(当時の若先生)がその三人を
 誘って、一泊のキャンプに連れて行
 ってもらいました。



隈庄教会長
 吉田幸一先生

教会でテントを買ってもらいまし
 て、教会の車で四人で出かけまし

サワガニのいる小川のあるところ
 でのキャンプで、新鮮味がありまし
 た。技能を身に付けるといふもので
 はありません。

昼食後に集まって、二日市から近
 い太宰府天満宮の近くの山のふもと
 で、分譲住宅が失敗したような段々
 に整地はされていきましたが草ボウボ
 ウの空き地があり、当時の若先生が
 前もって調べておられ、そこで昼の
 二時くらいから設営しました。

そうして散策、今でいう里山に連
 れて行ってもらいました。

途中で「ガメノハ」(正式名称はサ
 ルトリイバラ、鹿児島ではカカラン
 ハ)というお饅頭を包む葉っぱを見
 つけると、昔はお祖母ちゃんたちが
 ダンゴや饅頭をこの葉っぱで包んで
 作ってくれていました。その葉っ
 ぱが殺菌作用があると、湿気を保
 つ働きがあることを教えてもらい、
 野イチゴを見つけて取ったり、また
 小川ではサワガニを取りました。
 サワガニ取りも、取ればバケツに
 入れて生き物採集というつもりで取
 りました。

八、◆いのちを食す◆
 その後、夕食の準備の時間になり
 ますと、若先生(当時)がてんぷら
 油を準備しておられました。

食べることのできる山菜を若先生
 から教えてもらい、取ってきた山菜
 に衣を付けて天ぷらを揚げる準備を
 していました。

すると若先生が「このサワガニも
 食べられるもん」と言われてピッ
 クリしました。

バケツの中でガサガサガサガサ音
 がして生きています。それを
 天ぷらにして食べようかということ
 なのです。

生きてるわけですから、ビックリ
 しました。

それを天ぷらに揚げたら、シュー
 と音がして赤みをおびたサワガニが
 もっと真っ赤になるのです。

私たちは食べ物と違って採集した
 わけではありません。

しかし、計画の中にプログラムと
 して入れてあったのだと思います。

ご飯も、山菜も、サワガニも、そ
 のような命あるもので、私たちの命
 が支えられているという仕組みを言

葉で教えるのではなく、眼の前で生きていく命が食べ物になっていくということを学ぶのです。

大人の眼で見ればビールのつまみか何かで美味しく見えるかも知れませんが、子供ですからそうは見えませんが、食べてみると美味しいのです。

つい先ほど自分の手で捕まえたのですからへあの時捕まえなければよかった」という後ろめたさというのもあったように思います。

それを頂かせてもらうということなのです。

その四人で行ったキャンプが忘れられません。

特に、その日の薄暗い明かりの中で食べたサワガニのことが忘れられないのです。

へホントに、命を頂いたなー、命あって私たちは生きられるのだな」と、年齢を重ねれば重ねるほどへ有り難い経験をしたなー」と思えるのです。

キャンプをして、そのような経験をするために、若先生は事前に散策をして、ここにサワガニがいて、こ

こに山菜があって食料になると、事前に下見をしてから計画を立て、連れて行って下さったと思います。



九、◆生涯の信心の仲間◆

もうひとつその時に感じたのは、

キャンプが楽しいだけでなく、友達というか人間関係というか仲間というか、そういう人たちと行くと、もっと楽しいんだなと思えました。

ふだんは学校に行って半日勉強し

て帰る友達と、キャンプのように自分たちの食生活を一緒に役割分担して、水汲みに行ったり火を焚く焚き物を取りに行ったり、みんなのために用意をしてめいめいがみんなのことを思いやりへ良かった、楽しかった」と思えるキャンプにするために準備をして下さってあったことが、今になって有り難いことであつたと思います。

そのような行事の積み重ねで信心が続いたように思いがちですが、子供の頃に教会がキャンプの場所であったり、そこでの先輩が人間的に素晴らしく優しく人格者であったというようなことがあり、ずっと一緒に全国大会に行った仲間たちの中から改めて四人だけでキャンプに行った経験ということが、信心が続いて信心のお育てをいただいて行くことにつながつたと思います。

十、◆大学生時代の御用◆

今回、お話の御用の連絡を受ける少し前に、二日市教会の若先生（千種新地郎先生）から連絡がありました。

二日市教会には「土(つち)」「とい
う教会だよりがありまして、毎月隈
庄教会にも送っていただいています。

ちようど今月の五月一日で五百号
になるということで、記念号に二日
市教会の在籍の信者で教師となった
私に投稿してもらえないだろうかとい
うことで原稿依頼がありました。

こちらの先生からも御用の依頼が
あっていましたので、少し小さい頃
のことを思い出しておる、その矢先
でした。

その教会だよりの第一号は、昭和
五十五年の十月一日号ということ
でした。

ちようどその頃、私は大学四年生
で、進路を決める時にさしかかって
いました。

まだ教師になる前のことで、青年
信徒の頃で、少年少女会の御用をさ
せていただいている時でした。

当時の若先生(千種敏行先生)が
「教会だより」は二代の親先生(千
種信雄先生)の教話を載せると文章
として残るし、信者さん方の家の信
心の歴史が残り、教会行事の文章と
写真を掲載すると教会の歴史が残る

ことになるという願いを立てられて
始められました。

今のような精度の良いコピーなど
がない時代です。

甘木教会にもありましたが、オフ
セット印刷でした。そのため和文タ
イプで、鉛の活字をパチンパチンと
打って活字を打ち出していく機械が
ありました。

そのため、若先生(敏行先生)か
ら「幸一、お前は教祖伝『生神金光
大神』とか、ご伝記『安武松太郎師』
の連載物を毎月二ページずつ続けて
行きたいと思うが」ということで、
そのような御用を頂きました。

それが始まりで、少年少女会の御
用によるつながりだけではありません
でした。

しかし、記事は少年少女会の行事
を載せる御用をさせていただいてい
ました。

加治木教会も教会だよりがあり、
四年前に頂いていました分にも「野
外調理」とか掲載しておられました。
四年前のことがわかるわけですから
〈有り難いことだな〉と思わせて
いただきました。

そのようにして、二日市教会の教
会だよりの発行の御用に携わるよう
になりました。

また、大学に入った頃、先の親先
生から(二代教会長信雄先生)神饌
室に、御本部発行の『教報』とか、
甘木教会の『しんあい』とか、各教
会から送ってくる教会だよりと
少年少女会連合本部発行の『わかば』
また高校生や大学生向けの『オピニ
オン』などを「中間中間でいいから、
一月から十二月まで、束にして置い
てあるのを黒紐で綴じる御用をして
くれ」と頼まれました。

私はへ先生は忙しいからなぐとく
らいにしか思っていますでした。

しかし、何か月かさせてもらって
いますとへ先生は何を読んでもあるの
かなぐと思いつながら、自分に関係
するようなところを読んで行くよう
になりました。

そうしますと、今まで気が付かな
かったこと、先生のお話でしか吸収
できなかったことが、こんどは活字
からこのお道の有り難いことを読み
取らせていただき、『オピニオン』な
どは私と同じくらいの年代の学生が

原稿を書いているわけでへこのように活動があっているんだな」と気付かされてお育てをいただいたようなことでした。



今考えてみると、先生の祈りの中で、仰せいただいた御用であったことを思わせていただきます。

「これはためになるから読みなさい」と言われて渡されると、自分からへこれは何だろうかと興味を持って読みさせていただくのでは、やはり違うように思います。

それがへこの次の号には何があるのだろうか」と楽しみでした。

十一、◆お道の教師を志す◆
そのようなこともあって、大学四

年生になった頃に、金光教学院に行かせてもらう決心ができて、家から朝御祈念にお参りして、そのあと教会でそういう御用をしたり、少年少女会の準備をしたり、教会だよりをタイプで打って、若先生のお手伝いをしたり、けっこう御用がありました。

そのような経験を一年させていただきまして、金光教学院に行かせていただきました。

その和文タイプや印刷機があった四畳半くらいの部屋が、私が学院から帰ってきた時に、きれいに空けていただいて印刷室は境内に小屋を別に設けられて、私の修行生部屋を作って下さいました。

そうして教会での修行生生活が始まりました。

学院を出てすぐは、電話のある所でしたから、電話に出る係をして、お参りがあったら「先生が見えますからお待ちください」というような御用をさせていただいていました。

少年少女会は、そうなりますと通いではありませんから、教会にいろいろなことができるわけです。

当時、教会の前にダイエーショップ、パスプラザというのがありまして、用事で行ったりしますと、飾り物とかを見るとへ今度の少年少女会にこういうのが良いな」と、眼に映るのはすべて少年少女会につなげているようなことでした。

車で、親先生（信雄先生）を甘木教会まで運転して送る時も、山を見てへハイキングやピクニックはこういう場所が良いな」とも思っていました。

そのような中で、私の中のテーマは、小学生までは教会の少年少女会にご縁があるけれども中学生・高校生になると自然と子供さんたちが、部活や習いごとなどで来れなくなるという問題で、いわば「どうしたら信心が続くか」がテーマでした。

小学校五・六年生になると来なくなるのです、幼稚園の小さい子供さんも一緒での集会でしたので、そういうことはできないということはいえませんでしたので、そういうことでもあったのかも知れません。

(つづく)

八月のご霊神様のおまじ

信國禮子之霊神	昭和20・08・03
庄村一郎之霊神	昭和19・08・04
中島シマ之霊神	昭和25・08・06
汰木絹子之霊神	平成28・08・06
西本ハナ子之霊神	平成11・08・07
平島卓也霊神	平成17・08・08
桐野日満子之霊神	令和2・08・08
中村宗吉之霊神	大正11・08・10
松田伊助之霊神	明治36・08・13
岡元スミ子之霊神	平成18・08・14
大重 久之霊神	昭和41・08・18
庄村政雄之霊神	昭和13・08・21
星原隆彦之霊神	昭和55・08・22
星原阿稱子之霊神	平成16・08・26
上田ハル之霊神	平成16・08・26
福元チヨ之霊神	昭和28・08・28
小坂篤夫之霊神	昭和58・08・28
柳園ハナ之霊神	平成15・08・29
中村愛加之霊神	平成03・08・
檜原ヤオ之霊神	昭和40・08・30
向江ナツエ之霊神	平成24・08・31

「先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。」
 立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げましょ。う。
 教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げましょ。う。教会では、十日の月例祭で、「霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

※少年少女会員はチャレンジカードに、大人は「信行取り組み表」にチャレンジ!

朝の日参り	夕参り	夜参り	水を使わせない時	便、排泄にお礼	健康を願うお礼
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○
9	○	○	○	○	○
10	○	○	○	○	○
11	○	○	○	○	○
12	○	○	○	○	○

あしあと 加治木教会行事記録

- 7月
- 1 (土) ●報徳月例祭 10時半
- 8 (土) 前日準備御用
- 9 (日) 加治木教会祈願祭 11時
併せて「育成懇談会」
- 10 (月) ●月例祭(主神金光 併せて) 10時半
●甘木親教会 祈願祭
- 17 (月祝) ●甘木親教会 祈願祭
- 21 (金) 清掃御用 10時
- 22 (土) ●月例祭・共励会 13時半
- 23 (日) 少年少女会「七夕」10時半
- 25 (火) 26 (水) 教師研修会(教会長)
- 29 (土) 青年企画会議 8時半 (上野田教会)
- 30 (日) 多良木教会 祈願祭・式年祭
- 31 (月) 清掃御用 10時

感 詠 (教会長)

七夕の笹に願いを飾り付け
 祈りを託すならいゆかしき
 教会の少年たちの催しに
 心はずむは今も昔も
 ことあるは神のみかげの兆しなり
 その奥にある神慮尊し
 チャンスなりわが生き方を
 意味のあるものに導く難儀見つめて
 事ありてわが生き方に立ち止まり
 大切なもの見なおしゆかむ
 期待され願われてあるそのために
 打たれ練られて本物となり
 滝水に打たれおるよりわが心
 澄ましてわれを打つ難見据(みす)え

八月二十七日(日) 十時半より

鹿児島地方教会連合会主催

夏のつどい

場所：上荒田教会農園(鹿児島市小山田)
※くわしくは、別紙チラシをご覧ください。

九月九日(土)

九月九日 午前七時 出発

甘木親教会

信徒の集い

九月三日(日)

午前十時～十二時半

鹿児島地方教会連合会

女性の集い

申し込み締め切り八月二十二日

講話・北園舞氏(串木野教会)

場所・勤労者交流センター

(鹿児島中央駅前イオン7F)

九月三十日(土)～十月一日(日)

御本部教祖百四十年記念

生神金光大神御大祭 参拝

教会行事

8月

1 (火) ●報徳月例祭 10時半

5 (土) 少年少女全国大会 第一日

6 (日) 少年少女全国大会 第二日

9 (水) 清掃御用 10時

10 (木) ●月例祭(生神金光 併せて 大神様 月靈祭) 10時半

18 (金)～19 (土) 甘木婦人教師会

19 (土)～20 (日) 全国信徒会教祖140年特別研修会

21 (月) 清掃御用 10時

22 (火) ●月例祭(天地金 乃神様) 共励会 13時半

25 (金) 連女性教師会(鹿児島教会)

27 (日) 連夏のつどい(上荒田教会 農園)

31 (木) 清掃御用 10時

※《未定行事》青年会・若婦人会

9月

1 (金) ●報徳月例祭 10時半

3 (日) 連女性のつどい 10時

9 (土) 甘木親教会信徒の集い

9 (土) 清掃御用 10時

10 (土) ●月例祭(生神金光 併せて 大神様 月靈祭) 10時半

16 (日) 連青年のひろば

18 (火) TSC 小倉教会手続教師講習 交流会 会場・甘木教会

21 (木) 清掃御用 10時

22 (金) ●月例祭(天地金 乃神様)

23 (祝) ●秋季霊祭 10時半

30 (土) 御本部(生神) 御大祭参拝

1 (日) 御本部(生神) 御大祭参拝

3 (火) 清掃御用 10時

4 (水) ●報徳月例祭 10時半

金光鹿児島地方教会連合会 青少年育成協議会

夏のつどい

土をいじって、土のにおいをかいで
みませんか?! 親子ピクニック

集合時間 8/27(日) 10:30～15:00

集合場所... 上荒田教会農園(鹿児島市 小山田)

持ってくるもの... お弁当・水筒・帽子・筆記具・虫よけスプレー(7時～8時30分)
軍手・長ぐつ(土のにおいをかぐ時)・園芸用スコップ(小)

※熱中症対策には、それぞれ十分ご注意ください。

対象... 子供も 大人も みんなでどうぞ!

内容... 土をいじって、桜島だいごんのたねまき体験。
※夏休みの自由研究「桜島大権の育て方大研究」! ←(記入表半欄)
※木工工作で、トンボやフクロウなどの「アケセサシ」を作りますよ!
(記入表・工作は夏休みの課題として提出しましょう!)